

# 緑ヶ丘小学校・緑陽中学校 小中一貫教育の取組



## 北広島市立緑ヶ丘小学校・緑陽中学校スタンダード

### ともに向上 『Green Up』

進んで考え 学び続けます。

- ☆ 学習・読書習慣を定着させます。
- ☆ 基礎的な学力を身に付け、主体的に学ぶ子の育成

仲間・地域をやさしく支えます。

- ☆ メディア・家庭のあり方について考えます。
- ☆ 思いやりの心を持ち、社会を支えられる子の育成

心も体も きたえます。

- ☆ 健康・安全について、子どもとともに考えます。
- ☆ 自己有用感の高い、チャレンジ精神豊かな子の育成

《それぞれの目標》

上段：小・中学生

☆：両校PTA・地域

★：両校教職員



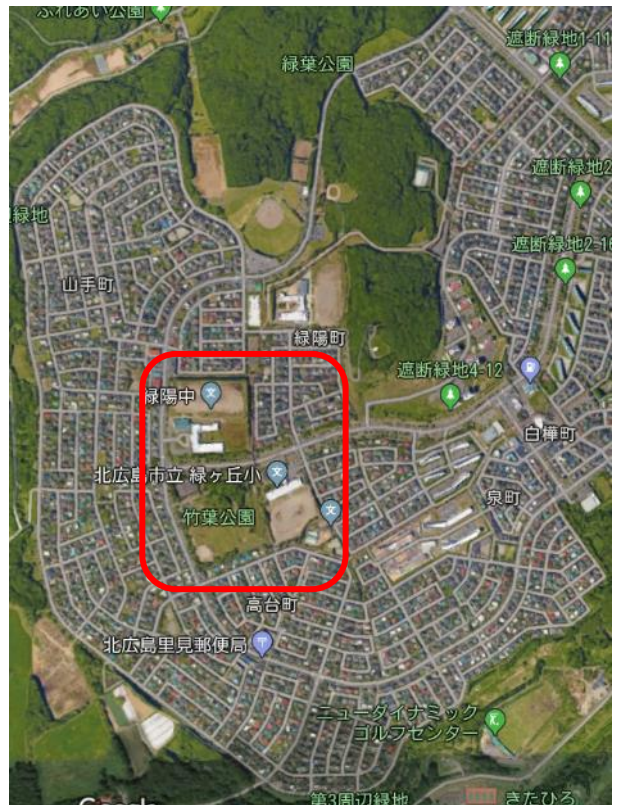
# 1 校区の特徴

## ① 学年1クラス

緑ヶ丘小学校は、平成24年に高台小学校と緑陽小学校が統合して、できた学校です。統合の主な理由は児童数の減少です。開校当初は学年2クラスあった児童数も、現在ではほとんどの学年が1クラスしかありません。また、緑陽中学校は最大で学年5クラスの時期もありましたが、緑ヶ丘小学校の卒業生が入学するというので、今後は学年1学級となっていくことが予想されます。クラス替えを経験することなく、9年間を過ごす子どもがほとんどというのが、大きな特徴です。

## ② 小学校と中学校が近接

北広島市の小中学校の中では、西部校区と本校区が、小学校と中学校が近接しています。このことにより、互いの校舎を行き来する、交流活動が非常にしやすいという長所があります。



校区の画像。中心部に学校があります。

# 2 一貫教育の必要性

## ① 子どもが安心して学び続けられる環境づくり

近年子どもをとりまく環境は、大きく変わってきています。校区は戸建てが多く、経済的にも恵まれた環境の子どもが比較的多くいます。各家庭には自家用車があり、放課後の習い事も家族が送迎する場合も多くあります。また、携帯電話やタブレット型PCなども所持率が高く、家庭で自由にインターネットを活用することができる子どもも多くいます。このような環境の変化の中で、心配されることは、子どもたち同士の人間関係のあり方です。SNSなどを使ったいじめや犯罪は報道でもよく耳にします。本校区も例外とは言いきれません。

子どもたちが、安心して学校に通い、確かな学力や、豊かな心、健康な身体をはぐくむためには、小学校と中学校で一貫した教育を行う必要性があります。

中1ギャップという言葉を目にしたことがあると思います。中学校に進学した時に、小学校との違いから、学校生活に戸惑い、うまく適応できないことを言います。本校区は特徴でも触れたように、小学校のメンバーがそのまま進学します。人間関係の環境の変化というのはあまり影響が無いというメリットと、固定化されてしまうというデメリットがあります。その点を踏まえながら、本校区は学習や部活動についての不安要素をできるだけ取り除き、中学進学を安心して迎えらるような一貫教育を工夫していく必要があります。

特に、部活動については、子どもの数の減少により、以前よりも選択肢が減ってきているのが現実です。そのような中でも、意欲的に部活動に取り組み、心身ともにたくましく成長して欲しいと願っています。

## ② 夢をもち、将来を意識したキャリア教育

子どもをとりまく環境は、身近な点ばかりではありません。人工知能の発達により、将来子どもたちが就職するときには、今ある仕事の何割かは存在しないとか、今は存在しない職業ができるなど、非常に予測しづらい世の中になってきています。

だからこそ、子どもが小さいときから、将来を意識し、自分の得意分野などをしっかり見つけ、進路を考えていくというキャリア教育は、今まで以上に充実させていく必要があります。北広島市は独自に夢ノートを作成し、4年生以上の子ども全員に配布しています。

その夢ノートを活用して学習する内容を「大志学」と名付け、全市的に取り組んでいます。

本校区では、キャリア教育の学びが連続するように、指導内容を工夫しています。



## 3 具体的な取組

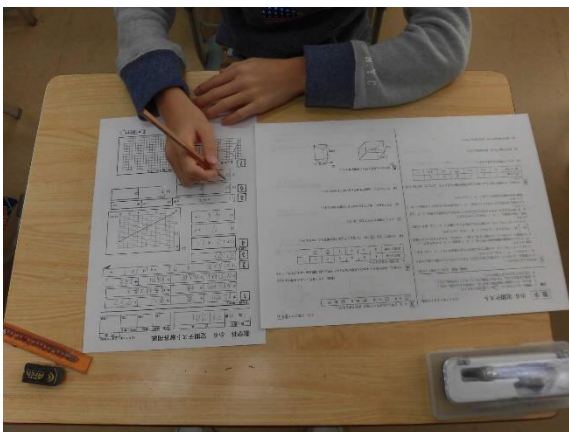
### ① 学習の決まりや家庭学習の手引きを統一

学習用具に始まり、黒板の使い方やノートの記入など、小学校と中学校で統一したやり方にすることで、安心して授業に臨むことができると同時に、学習の確実な定着に結びつけることができます。

### ② 教科担任や定期テストに慣れる

中1ギャップの大きな要因に、中学校の教科担任制と定期テストがあげられます。小学校の時は担任の先生がほとんどの授業をしていましたが、中学校では教科ごとに先生がかわります。その仕組みに慣れるために、中学校の先生が小学6年生に授業をすることで、事前にイメージをもち、不安感と戸惑いを減らします。

また、小学校の時は単元が終わるとテストをしていましたが、中学校になると定期テストに変わり、出題される範囲も広がります。学習の方法も自主的に工夫することを求められるようになるために、多くの子どもが戸惑い、慣れるまで苦労することがあります。そこで、小学6年生から、中学校の定期テスト型のテストを行い、慣れていくようにしています。さらに、そのテストの解説を中学校の先生が小学校に来て行うことで、より進学後の学習イメージを高めます。



定期テスト体験（問題と解答用紙が別）



中学校の数学の先生が解説

### ③ 部活動体験

冒頭触れたように、緑陽中学校は部活動の数も減ってきています。小学生の中には、希望する部活動が無い子どももいるかもしれません。そのような中で、意欲的に部活動に参加できるようにするために、5年生からいくつかの取り組みをしています。

#### ・ 新人戦壮行会見学

中学校では生徒数減少により、壮行する生徒の方が圧倒的に少なくなっています。小学5・6年生も応援に来てくれると、大会に臨む士気が高まります。小学生も、中学生の姿をみることで、次の自分の姿をイメージし、主体的に部活動について考える姿勢が養われます。

#### ・ 部活動体験

6年生は、実際に中学校で部活動に参加します。一つに決めてじっくり体験したり、一通りの部活動を見て回ったりして、無理なくイメージできるようにしています。中学1年生は、春から先輩になるという自覚が生まれます。同時に新入生がどのようなニーズをもっているか事前にある程度把握できるという効果もあります。



新人戦壮行会見学



部活動体験

### ④ 合唱交流

緑陽中学校は昔から合唱指導に力をいれてきました。合唱は緑陽中の伝統とも言えます。学校祭終了直後の中学3年生が、学芸会練習に入った小学4年生に合唱を披露し、交流します。中学生は音楽の集いに向けての最終調整にもなり、小学生は学芸会の発表に向けて、中学生からアドバイスをもらいます。互いに刺激し合って、校区の伝統をしっかりと守る態度と意識が養われます。同時に、「自分たちには合唱がある」という緑陽中校区で育った誇りと自信が身につきます。



※他にも合同あいさつ運動や、教職員の合同研修など、様々な取組をしています。